

加藤正利・荻野隆一副委員長の脱退表明を絶対に認めない。彼らの行為は、東海労の運動を否定する組織破壊行為だ。

加盟単組である JR 東海労に対して組織破壊を行う JR 総連とは決別する声明

11 月 21 日に加藤正利副委員長の脱退届が本部事務所に FAX にて届いている事が分かりました。加藤副委員長はラインにて、既に脱退した森下氏のメッセージ(11/26 本部発行職場討議資料参照)を送りつけた後、「私の決意は、名古屋地本 LINE に送った通りです。話しあつても生産せいがありません。私は、森下さんと新しい道を進みます。」(原文ママ)と短い誤字を含んだ文章を残し、この後加藤氏は連絡を絶ちました。

荻野隆一副委員長は、11 月 29 日の自らが提起した神領車両区入区場面の嘔吐物処理に関する業務委員会を終えた後、脱退届を提出した上で、「批判と否定を繰り返す組合にはいられない」と言い残し、その場を逃げ去りました。

2 名は JR 総連側の新労組に加入すると思われますが、これから職場の労働者の権利と利益を守る闘いをどのように展開しようとしているのでしょうか。2 名の口からは将来展望は語られていません。荻野氏は名古屋地本元委員長として、JS 労立ち上げを賛同してきた立場であり、この事についての説明もありません。何らの意味を持たないこの脱退は、2029 年に東海労・西労を解散させるという JR 総連の無責任な方針を拒否した JR 東海労への組織破壊に加担するものであり、脱退を認める訳にはいきません。名古屋地本の組織運営を混乱させた 2 名の行動については、組織破壊行為であることを確認しました。

この中で JR 総連は、新労組である JR センtral 労働組合を結成させ、JR 東海労に対して分断を仕掛けてきています。加盟単組である JR 東海労への組織破壊を強める JR 総連とは、決別することを決意しました。

JR 総連からの組織破壊を跳ね飛ばし、今後も JS 労の仲間はもとより JR の職場、出向先の職場、関連会社で働く全ての仲間達と団結を固め、職場からの闘いを展開し東海の地から JR 東海労による労働運動の炎を燃やし続けていくことを明らかにします。

以上

2024 年 12 月 7 日

JR 東海労名古屋地方本部